

## アフリカ開発はどうか可能か

国連がアフリカ諸国と協力してアフリカの経済復興と開発のための行動計画を作成したのは五年前であるが、このほど国連はその成果を検討して公表した。アフリカ各国の経済社会条件は、各国政府の努力にもかかわらず、この五年の間に悪化した、というのがその結論である。

この行動計画の策定にあたって、アフリカ諸国は経済改革に政策重点をおき、特に農業の復興とその拡大発展、農業関連領域の開発、干ばつと砂漠化対策、人材開発と活用に焦点をあてることにした。しかし国内資金の投入が、一次産品価格の下落によって予定を下回った。1986年だけでも一次産品の価格下落で、アフリカは190億ドルの損失を蒙ったことになったし、五年間では総計500億ドルの輸出収入の不足となった。

アフリカへの資金流入も1986年の246億ドルから1990年の233億ドルへ減少した。政府開発援助(ODA)の額が停滞気味なのに加えて、民間資金の流入が明らかに減少したのである。

アフリカ諸国の国内総生産の成長率は少しは改善された。しかし年成長率の平均は2.3%に過ぎず、一人当たりの国内総生産は一年について0.7%ずつ落ち込んだ。人々の生活水準が下がり、教育、保健、栄養、雇用などの社会サービスが落ちた。社会サービスの悪化を貨幣価値の切下げ、労働強化などで賄おうとした国内政策のつけが地下経済の活発化をもたらした。国民の生産性や労働意欲を損ない、技術者の国外流出を招いた。

さらに加えて、アフリカの多くの国に干ばつが繰り返し襲ってきた。また政治的不安定、部族対立、軍事抗争などが経済活力を奪い、硬直化を招くことになった。

つまり1990年までの計画期間内に、アフリカの多くの国で経済生産や社会活動の伸びが低くなり国によっては減少したところもでた。したがってアフリカ諸国の経済改革と開発戦略の必要性は一層増大してきているのだが、最低限に必要とされる投資さえままならないという状況におかれている。アフリカの経済改革はアフリカだけの力では不可能であり、国際的な協力の枠組みを必要としている。1990年代の持続可能なアフリカの開発のために、アフリカ諸国が戦略をたて、それに国際的な協力が寄せられなければならない。

1990年代のアフリカ開発のためには、次の諸点に中心をおいて、経済構造の再編成と経済の発展そして近代化がはからなければならない。すなわち、1)人材開発への投資を拡大すること、2)環境、人口、食糧生産を統合する政策を実施すること、そして3)地域統合と協力への努力と統治行政能力の強化をはかること、である。

年間に6%の経済成長をはかろうとすると、アフリカは1992年に純額で300億ドルの政府開発援助(ODA)を必要とし、またかなりの債務軽減がはからなければならない。政府開発援助は引続き2000年に向けて年4%ずつ増やしていく必要がある。

アフリカ諸国が2700億ドルをこえる債務を抱えたまま開発できるわけではない。債務の利子だけで輸出額の30%以上が消え、その額は年に210億ドルに近い。政府や公共機関による二国間債務を帳消しにし、民間債務を書換えによって減価し、多国籍金融機関による債務を援助国の協力のもとに実質的に減額していくこと、が必要である。(UN Development Forum 1991年9-10月号から)

## 国際協力世論調査 - カナダのケース

カナダの国際開発庁(CIDA)がカナダ国民の国

際開発援助についての世論調査結果を発表している。それによるとカナダ国民の多くは他国を援助する事業を支持しているが、その内容はよく理解していない、ということのようである。

この調査は1990年の1月に1725人を対象にされたものである。世界でもっとも大きな問題はなにかという問いに対して36%が環境問題だと答え、飢餓と貧困が最大の問題だと答えたのは13%であった。そして70%の回答者がカナダは第三世界に援助を多く提供している。

国の一つだと考えている。そして21%はカナダは開発援助に金を使いすぎていると答えたが、71%の回答者は政府は十分な資金を開発協力に回していない、あるいは政府の開発援助予算は少ないとしている。

にもかかわらず、その一方で80%の回答者がカナダで援助を必要としている者を優先的に援助すべきだと答えている。国際協力に必ずつきまとう国民感情ともいえるものだろう。さらに66%はカナダは東欧諸国に援助すべきだと答え、33%は第三世界への援助が少なくなってもいいから東欧諸国へ援助すべきだとしている。

これらの調査結果の分析があるコンサルタン会社の手でなされているが、それによるとカナダ国民の海外援助支持基盤は軟弱であり、国際協力団体は国民によく知られていなくて信頼されていない、ということのようである。国民が海外援助をあまり支持していないのは、援助は非効率的であるという思い込み、長期の開発協力よりも慈善や緊急援助の焦点をあてているマスコミの報道、国際協力団体が使う用語の混乱、などに原因があるだろうとされている。

#### ベトナム難民とホンコンの人々

1975年以来ベトナムから一次庇護を求めて流出した難民は77万人、いずれかの国に定住を認められた難民は67万人、したがって今でも約10万人のベトナム難民が一次庇護を求めた近隣諸国の難民キャンプで生活をしているが、その半数はホンコンのキャンプに収容されている。ちなみに日本は

698人しか収容していない(いずれも本年5月)。人口600万人のホンコンが6万人のベトナム難民を引き受けている。この難民の波は過去16年間、途絶えることなく今にいたるまで続いている。その負担に耐えかねて1989年にいわゆる経済難民を強制送還する措置をとったら、厳しい非難が国際社会から浴びせられ強制送還をやめたという経緯も残っている。

今年の夏にはその問題が再燃した。6万人のキャンプ収容難民のうち、6500人だけが正当な政治難民と認められて定着移住をまわっているという。残りの難民は希望をもてない人たちである。その中で暮らしている子どもたちはキャンプ内での暴力、殺人行為にさらされている。またキャンプし知らない子どもも増えている。キャンプ内の出生率は高く、1979年以降、キャンプで生まれた子どもの数は1万人を越えている。しかも最近では親や親戚の大人と一緒にいる、子どもだけの難民が増えてきている。

世論調査によると、70%の住民が新たな難民を上陸させないで海に追い返すことに賛成している。

夏には4万人の署名が集められ、ホンコンが一次庇護の難民を引き受けるのを止めること、難民資格を認められない者はベトナムに強制送還することを求める請願書が提出された。

#### お知らせとご案内です

##### § 「めぐこ」チャリティバザー

「めぐこ」-「南」の子どもたちの自立を支える会では11月13日から15日まで本年第2回のチャリティバザーを開く準備をすすめています。古着以外の不要品の寄贈を歓迎しています。問い合わせや送付先は〒102東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学マタイス研究室内の同会まで。

##### § 開発教育スライド教材上映会

11月15日(金)午後7時から東京都渋谷区広尾の青年海外協力隊事務局講堂で、動くアジア(APIC製作)と地球の仲間たちPartII(開発教育を考える会)の二組のスライドが上映され、その利用について話し合われます。問い合わせは国際協力推進協会の重田さん、TEL03-3504-2085まで。

##### § GATEの活動と日本の教育を語り合う会

11月16日(土)午後2時からGATE(教育のためのグローバルネットワーク)主催者のフィル・ギャングさんを囲んでの会が、法政大学80年館7階大会議室1(環境社会学研究会会場の名称)で開催されます。会場は東京JR中央線の市ヶ谷または飯田橋駅から徒歩10分前後のところですが、問い合わせは〒115 東京都北区桐ヶ丘2-10 N32-47 藤田 悟さん(TEL03-3907-8196)まで。

##### § 第18回国際理解セミナー

帝塚山学院大学内の国際理解教育研究所では大阪YMCA国際社会奉仕センターと共催で、11月16、17の両日、YMCA六甲研修センターでグローバルな認識を育てる国際理解教育を主題とするセミナーを開きます。参加費3000円。参加人数は40名までで11月9日までに〒大阪狭山市今熊2-1823帝塚山学院大学内 国際理解教育研究所あてに葉書で申し込むこと。問い合わせはTEL0723-65-0865。

##### § 開発教育セミナー

滋賀YMCAでは11月16日と12月14日(いずれも土曜日)のそれぞれ午後6時半から国際理解教育研修と銘打った開発教育セミナーを開きます。会場はいずれもJR近江八幡駅の近くで参加費は無料。TEL0749-23-1646, 0748-33-2420, 0775-64-5518のいずれかに問い合わせのこと。

##### § 車座トーク

シャプラニール市民による海外協力の会では車座トークを次の予定で開きます。毎回午後6時半から、会場は各会とも東京都新宿区の早稲田奉仕園セミナーハウス201号室、会費は各会500円。問い合わせはTEL03-3202-7863の同会まで。

11月22日(金) バングラデシュの生活と文化

12月6日(金) 成人識字学級

12月20日頃 年末カレー大会

1月17日(金) サイクロン緊急救援と復興活動

##### § アムネスティ国際人権デー集い

アムネスティ日本支部では今年国際人権デーの前後に次のような企画を準備しています。開催地域・内容・日時・場所・参加費・連絡先の順で記します。

東京都国立市 講演会「ソ連における人権擁護の運動と8月革命」 12月7日(土)午後2時 国立市公民館 無料 TEL0425-75-5173中田美治さん  
仙台市 講演会「代用監獄」 12月14日(土)午後2時 仙台市戦災復興記念館会議室 300円 TEL022-211-5568星野教子さん

東京都 落語会「アムネスティ寄席」 12月15日(日)午後6時 新宿紀伊国屋ホール 1200円TEL03-3203-1050アムネスティ東京事務所

##### § 幼い難民のためのコンサート

幼い難民を考える会では12月6日(金)午後6時から東京都渋谷区広尾の聖心女子大学御聖堂でタイ難民キャンプとカンボジア児童のための募金を兼ねてコーラスとオルガン演奏のコンサートを開きます。会費1000円。問い合わせは〒160東京都新宿区南元町6-2TEL03-3353-9947の同会まで。

##### § 看護の国際協力を考える集い

協力隊を育てる会では国際看護交流協会と共同で12月7日(土)午後2時から東京のJR中央線市ヶ谷駅近くのメジカルフレンドビル1階会議室で表題の会を開きます。参加費500円。申し込みはTEL03-3402-2153の協力隊を育てる会まで。

##### § グローバルセミナー神戸

神戸YMCA国際文化センターと開発教育神戸研究会では、10月から三回にわたる本年のグローバルセミナーを開催していますが、12月7、8両日と2月22、23両日が第2回、第3回の開催日、平和と人権をそれぞれ取り上げます。参加費は一回3000円。〒650神戸市中央区加納町2-1-15 TEL078-241-8801の神戸YMCA国際文化センターまで。

なお同センターでは11月から12月にかけて子どもをとりまく食べ物と健康についてのシリーズ研究会を開いています。同センターまで問い合わせてください。

##### § パネル・ビデオ・スライドのご利用をどうぞ

幼い難民を考える会は次のパネルなどの利用を呼びかけています。貸出は無料ですが送料を負担のこと。

パネル 鉄条網の中の子どもたち(12枚セット) 希望の家の10年の歩み(14枚セット)、子どもの

表情がこんなに変わった(8枚セット), 幼い難民を考える会日本国内での活動(7枚セット), インドシナの人たちの日本での暮し(10枚セット)ビデオ 幼い難民に未来を! 25分ナレーションつき

スライド カオイダン保育センター希望の家 38枚セット  
問い合わせや申し込みは〒160 東京都新宿区南元町6-2 TEL03-3353-9947の同会まで。

### § スタッフ募集中・バザーご協力を

シャプラニール市民による海外協力の会では、本年12月から東京事務所で勤務し来年8月から最低3年間ダッカで勤務できるダッカ事務所長候補を募集中です。またシャプラニールの熱い風(めこん, 1989年刊)の続編として1978年以降の活動記録を編集集中で、編集執筆者を募集しています。

いずれも関心のある方は〒169東京都新宿区西早稲田2-3-1 早稲田奉仕園スコットホール内 同会事務局長畑さんまで問い合わせを。

また秋から年末にかけてのバザーシーズンに、シャプラニールの手工芸品販売をお願いしています。販売できる手工芸品のカタログや事務手続きについての説明資料もありますので問い合わせてください。

§ 地球環境開発会議署名・カレンダーご案内  
アジア協会アジア友の会では来年の国連開発環境会議に向けて地球に生きるいのちのための要求(アースマンデート)署名運動を展開しています。署名の内容と形式は世界共通で、国連環境開発会議議長と各国政府代表者にあてるものです。署名用紙は〒101東京都千代田区神田駿河台1-2 馬事畜産会館内 アジア協会アジア友の会東京事務所までお問い合わせください。

また佐藤繁範さんのアジアの子どもたちの笑顔の写真による1992年カレンダー「アジアからのほほえみ」を一部1000円(送料込み)でお分けしています。収益はアジアに井戸を贈る運動に使います。お申し込みは上記の東京事務所に。

協議会事務局から

### ★ 第52回理事会

10月25日の午後開催し、中期計画事業、開発教育推進セミナー、事務局体制などについて協議した。

### ★ 91年度第5回運営会議

9月12日の夜に開催し、全国研究集会の反省、ワークショップ開催準備について報告や協議がなされ、さらに運営委員会体制について意見を交換した。

## 【新入・継続会員】(敬称略, 受付順, 8月27日~10月18日)

### <新入会員>

栗原 豊(埼玉) 笹川平和財団(東京) 吉田 康彦(埼玉) 石田京子(山口) 角田 理(山形) 木村利栄子(神奈川) 澤田寛旨(福岡) 村上登司文(京都) 木曾正治(東京)  
安藤 豊(北海道) 斉藤勝美(埼玉) 中村拡三(大阪) 国際開発高等教育機構(東京)

### <継続会員>

林美栄子(東京) 肥塚章子(東京) 曹洞宗ボランティア会(東京) 平田洋一(広島) 松延政子(千葉) 森山泰準(神奈川) 日本ユニセフ協会(東京) 荒井良夫(東京) 石井直子(和歌山) 高橋千夏(京都) 阪崎健治朗(北海道) 高橋 健(愛知) 深津高子(東京) 国保茂(京都) 山本鐘生(岡山) 若松悠紀子(東京) 古賀武夫(佐賀) 名古屋YMCA(愛知)  
奈須野正幸(千葉) 富安 正(東京) 森田 茂(埼玉) 竹内裕一(東京) 末次信行(京都)  
伊東直子(東京) 岸本茂徳(新潟) 豊田市国際交流協会(愛知) 猪股雄輝(神奈川) 斉藤博(熊本) 村田富美恵(福島) ケア ジャパン(東京) 高野彰夫(千葉) 古賀 純子(熊本) 河本すみれ(岡山) 小貫 仁(埼玉) 談儀善弘(和歌山) 吉村慶一(神奈川) 金尾有理子(神奈川) 渋沢弥生(大阪)